「災害に備えよう」

中津市長　奥塚　正典

今年の熊本・大分地震は、改めて自然災害の恐ろしさと発生後の対応のむずかしさを教えてくれました。災害ではまず人命を守ることが第一です。今回の地震で深耶馬溪に大きな落石があり店舗の一部を壊し県道の半分を塞ぎました。市として 16 世帯 27 名の方に避難勧告を出し二晩泊まっていただきました。

ところで、「避難勧告」や一段強い「避難指示」を発令した場合、食料を避難者に提供しますが、中津市はこれまで「流通による備蓄」という考え方で、業者と協定を結び必要となった時点で入手することとしていました。しかし、地震などで交通が広域に途絶する可能性も考えると、中津市独自で普段から常時食料を備えておく「現物による備蓄」が必要です。そこで早速、今年度から 5 年計画で非常時の食料を一定量現物で準備することとしました。備蓄品は水を入れるだけで食べられる白米と味付ご飯です。賞味期間が 5 年ですから毎年 5 分の 1 ずつ更新し、期限が来る前にその都度訓練などで有効に活用します。

防災は安心・安全なまちづくりに欠かせません。今春、市役所に防災危機管理課を置きました。市としてできる限り備えを整えた上で、万一の時は避難を含めしっかり対応できるよう努めていきますが、完璧はありえません。防災活動は自助・共助・公助です。ご近所さんとの助け合いとともに、市民の皆さんにも「自分でできる備え」をお願いします。

非常時持ち出し品セット（一例）